

# 山桜の里 戸赤

地元農産物を活かし新しい商品を作ろうと開催された南会津地方の地域産業6次化商品求評会で、花豆はエゴマ、食用ほうずき、トマトなどととも大きく取り上げられています。

花豆はおくやの「花豆パイ」、笹屋皆川製菓の「桜花豆まんじゅう」、パン香房LEAFの「米粉の花豆シフォンケーキ」、鶴ヶ池農産物加工組合の「金子牧場アイスクリーム」に加工されました。求評会では、おくやの松崎さんが「地域の名物を作りたい」との思いから始めた花豆パイ開発のいきさつや商品づくりのポイントについて講演しました。製造者12者商品18点に対し参加者は食味等の評価を書き込み商品化への手掛かりを一步前進させました。



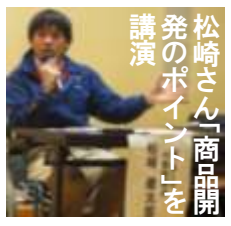
(パン香房LEAF) 米粉の花豆シフォンケーキ



(金子牧場) アイスクリーム



(笹屋皆川製菓)桜花豆まんじゅう



松崎さん「商品開発のポイント」を講演

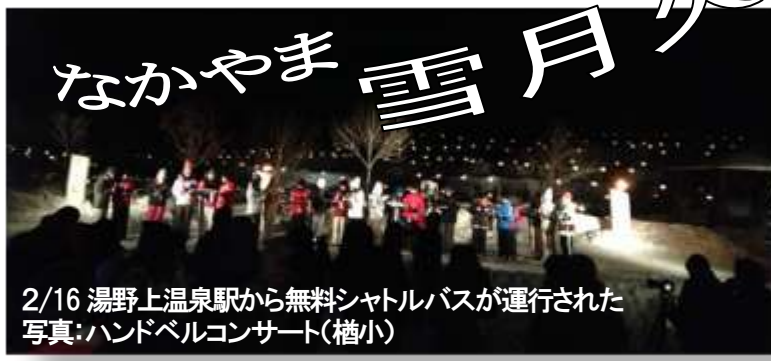


1月31日御蔵入交流館にて



## 花豆栽培講習会

### 会津王道ネットフォーラム



2/16 湯野上温泉駅から無料シャトルバスが運行された  
写真:ハンドベルコンサート(楢小)

なかやま「雪・月・火」は第9回を迎え、月明りの中でハンドベルコンサート、よさこい、フルーツ演奏など幻想的な感動を与えてくれました。 新開の「不動滝」・民友新聞ふくしま名勝発見より△



**東北観光物産展&東北・夢の桜街道パネル展**

戸赤の山桜が東北夢街道桜の札所八十八カ所巡りに選ばれていることから町観光協会からお誘いがあり、PRに参加することとなりました。

とき・二月二十四〜二十五日  
ところ・新宿西口広場イベントコーナー

**平成25年度戸赤区総会 3月10日(日)午前9時から 集会所**

【集会所雪下ろし2/17実施済み】

【木地の学習No.28】従来の仕来りで稼業を続けていた木地師は盗伐という汚名をきせられ、裁判においてもすべて敗訴ということで終わっている。また、この時期は陶磁器が安価に出回り木地製品を中心とした食器から陶磁器への食器へと移行していくときでもあった。こうした中で都市には資本家による木地工場の経営が始まり「近江根本地」の支配下にあった木地師は次第に経営的に圧迫されていった。今までは同業者一族で組織化されていたところへ町人や農民層から木地業へ職を求めて来るようになってきた時でもあった。木地師の生活が困窮していく中で従来型からの転換を余儀なくされ木地業の再編が行われてゆく。従来型の木地師(原木の伐採、荒型どり、ろくろ挽きにより製品に仕上げの一貫作業)は①従来通りの形態②都市木地工場の職人③山林労働者(炭焼きや木材の伐採等)への転業④木地荒型どり専門⑤①~④以外への転業ということになる。やがて山間地帯でも小資本家が水車ろくろを設置し木地挽き職人をいでの経営が始まる。しかし、昭和になってこの工場の多くは周辺の木地材の涸渇、入手困難により第二次世界大戦を境に消えていく。細々ながらも稼業していた工場も昭和三十年代の「プラスチック食器」の影響を受け廃業となる。思えば、二百数十年の間全国木地師の精神的存在としてあり続けた「木地師根本地」は従来型木地業の衰退と運命を共にすべく宿命づけられていた。明治二十六年の氏子駈りはまさに「木地師根本地」としての最後の輝きを放つにふさわしい「フィナーレ」であった。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)



# 町の文化財防火訓練

村の消防団員が2名となり組織の再編成に迫られている状況の中、3年に一度会場となる小椋家住宅・土蔵を対象に町の文化財防火訓練が行われ、婦人消防隊も参加しました。

**文化財、火災から守れ**  
下郷町の「小椋家住宅」で訓練  
下郷町や町教委、町消防団、消防団、南会津連防連などが出動し、関係者ら約60人が参加した。町教委が主催。町教委の文化財愛護が目的。26日の「文化財防火訓練」にちなみ実施し、町や消防団、南会津連防連や消防連防連など関係者ら約60人が参加した。町教委が主催。町教委の文化財愛護が目的。26日の「文化財防火訓練」にちなみ実施し、町や消防団、南会津連防連や消防連防連など関係者ら約60人が参加した。



婦人消防隊員は総勢10人  
訓練参加後総会に臨む



文化財を守るようと真剣に訓練に動く消防団員や関係者たち

25.1.31 民友新聞  
(左)  
25.1.30 民報新聞  
(下)

**古里の文化財守ろう**  
文化財防火デーに  
なだ防火訓練が二十七日、会津地方の各地で練り行われた。  
下郷町戸赤の国登録文化財建築物「小椋家住宅」で行われた。町消防団員ら約六十人が真剣に取り組んだ。

**ろくろを使って器作り 木地小屋**  
木地に囲われながら器作りなどを楽しもう。

**木工!**  
木地に囲われながら器作りなどを楽しもう。

県が発行した南会津PR誌(右)に、山桜・木地下房とアンケートの景品に花まめパイが選ばれ紹介されています。



**山がしとリンクに染まる 戸赤の山桜**  
とあかのやまざくら  
下郷町の中でも特に雪深い戸赤集落にある約100本の山桜。祖先が春の楽しみのためにと留め木にして強してくれた山桜群。春になると山麓一面を美しく彩る。

ア0241-69-1144 (下郷町事業課産業振興出展工務科) 南会津郡下郷町大字戸赤 見学自由

(花豆の学習[No27]) 花豆 (ベニバナインゲン) の栽培 6定植後の管理 (1)整枝 花豆は成旬が旺盛で過繁茂となりやすい。過繁茂のところは葉や側枝を摘み取って整理する。\*整枝作業 花豆栽培で一番労力を要する作業である。ある程度の規模になるとほぼ毎日のようにわき芽を摘む作業が必要になってくる。整枝を行うことによって、豆の品質特に大粒の割合が増加する。ただし、ツル先端の高所部分の整枝作業は非常に厳しい。(2)追肥 開花盛期(7月中旬頃)には生育を見て、チッソ4kg/10a程度を追肥すると収量が高まる。\*北海道の試験では、(白花豆)子実重7%、大粒規格(15.2mm以上ふるい)で15%増収した。追肥の例:10a当たりS646を20kg施肥 (3)病虫害 花豆は比較的病虫害による被害が少ない作物であり無防除栽培が可能である。カメムシは見つけ次第手で取り除き薬剤散布は行わない。ただし、アブラムシが発生した場合には農薬散布を行う。7収穫及び調整 収穫は9月下旬から10月下旬まで、豆のサヤが黄褐色に変色したものを順次収穫する。天日で十分乾燥させた後棒などでたたき脱粒させる。ゴミ等はふるいや唐箕を使って除去する。保存は冷暗所にて行う。光が当たると種皮が茶色に変色し品質が低下する。出荷時にはカビ、虫害、傷、割れのあるものは手作業でていねいに取り除く。(南会津農林事務所農業振興普及部資料から) (つづく)